



2019年5月31日

国立研究開発法人 建築研究所国際地震工学センター

第169号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

- 中南米地震工学研修開講
- 関西・熊本研修旅行レポート
- 関西・熊本研修旅行の写真

研修データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

中南米地震工学研修開講(建築担当の行政官は6月6日(木)まで、構造技術者は7月26日(金)まで)

国際地震工学センター 管理室長 山田高広

IISEEでは、今年も建築担当の行政官2名を含む11名の研修生を迎えて、中南米地震工学研修を実施しています(参加国は、チリ(2)、ドミニカ共和国(2)、エクアドル(1)、エルサルバドル(2)、メキシコ(1)、ニカラグア(2)、ペルー(1)、の7ヶ国。)

研修の開始にあたり、5月16日(木)に、建築研究所講堂において開講式を開催しました。

開講式では、JICA 筑波センター渡邊健所長と建築研究所緑川光正理事長が歓迎の挨拶を、ペルーのサンティステバン ベガ ホアキン マリオさんが研修生を代表して挨拶を行いました。

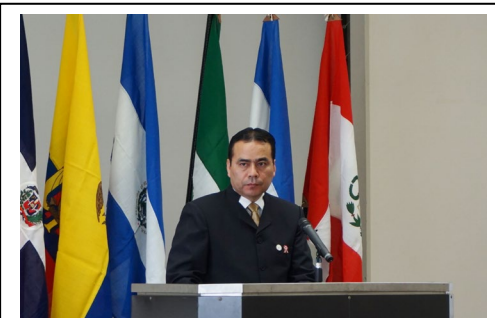
本研修は、中南米地域での耐震建築の普及や将来の地震被害の軽減に貢献することを目的として平成26年度から実施されています(これまでの研修修了者数は、11ヶ国から81名(うち建築担当の行政官は7ヶ国から11名))。



JICA 筑波 渡邊所長



建築研究所 緑川理事長



ペルーのマリオさん

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)



開講式



2019 中南米コースの研修生

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。

関西・熊本研修旅行レポート

地震学コース モハメド モミノール ラーマン, バングラデシュ,



バングラデッシュの
モミノールさん

4月16～20日に我々は関西地方(京都府、兵庫県)と九州地方(熊本県)を訪れ、東寺、金閣寺、人と防災未来センター、兵庫耐震工学研究センター(E-ディフェンス)、明石海峡大橋 橋の科学館、野島断層保存館、阿蘇大橋、東海大学阿蘇キャンパス、熊本城、益城町など様々な場所を視察・見学しました。

この研修旅行の主な目的は、地震断層、地震の原因、災害からの避難と復興のプロセス、次世代の防災のための記録の保存などに関する実践的な知識と経験を学ぶことでした。私の国(バングラデシュ)もまた、地質的、地理的に地震多発地域に位置してい

ます。日本の過去の経験からより良い未来のために災害とどう向き合うかを学び、日本の歴史と文化を学ぶこともできました。

「百聞は一見に如かず」ということわざがあります。実践的な経験は論理的な知識に勝るといことです。しかし、この2つを組み合わせれば物事を理解するには最適な方法となります。今回の研修旅行では、論理的な知識を実践的な経験をもって学ぶ機会に恵まれました。将来起こりうる大災害と向き合うために、我々は過去の災害から得た知識と教訓を学ぶことが大切です。そして、過去の災害の歴史を記録として保存することもまた大切です。1995年の関西・淡路大震災、2016年の熊本地震についてそのメカニズム、規模、損害の大きさ、その他色んなことを今回の研修旅行を通して学ぶことができました。そして、効率的な避難システムや復興/復旧プロセスについても学びました。知識や経験レベルが高められ、それこそが我々に必要なことであると痛感しました。地震多発地域の発展途上国から集まった国際地震工学センターの研修員にとって、今回得た知識と経験は非常に有益で有意義なものになりました。我々はここで得た専門知識とスキルを共有し、そして更に自国の防災対策に活かしていきたいと思ひます。



楽しむのは今です。



明石海峡大橋

津波防災コース

エリエット デル カルメン ペレス、ニカラグア、
ローラ アレクサンドラ ゴンザレス ロドリゲス、コロンビア、
マイケル アルトロ リントン アルバレス、エクアドル

JICA 研修生として、私たちは学術的な目的だけでなく、日本の文化、伝統、そして今日の日本に至るまでの過程について更に学ぶために来日しました。ここまでの学習で、日本は地震や津波といった最も破壊的な自然災害の影響を受けた大きな島であることを知りました。

吉田町への訪問では、この町がどのように防災対策において先進都市のひとつになったかを学びました。また、津波避難タワーや防波堤、有事際に仮設住宅となる防災公園等に訪れる機会がありました。いくつかの研究を経て、地方自治体

は尽力を注ぐための3つの主な見地を打ち立てました。人命救助、財産・製造業者の保護、災害後の援助です。



右からニカラグアのエリーさん、コロンビアのローラさん、エクアドルのマイクさん(津波防災コース)

一方、広川町では、津波防災センターで“稲むらの火”と呼ばれる浜口梧陵の逸話のような、昔の人々の津波防災に対する捉え方の変化について学びました。梧陵が指揮を執り、人々の助けを得て、初めて土を固めて防波堤を作り上げました。現在でもこ



熊本県益城町にて断層の観察

の防波堤は津波被害軽減のために使われています。

熊本では、阿蘇大橋や2016年の熊本地震によって同じく被害を受けた、市で最も重要な文化遺産である熊本城の再建の過程を見ることができました。益城町で右横ずれ断層の変位を観察できたことは、素晴らしい経験でした。

この研修旅行では、私たちにとって大変意義深いものとなりました。帰国したら、生死を分けるポイントとなる人々の復興力、自然現象に対する認識の重要性、取るべき行動

など、学んだことを活かしたいと思います。

最後に、JICA と IISEE スタッフ、そしてこの研修旅行の調整や案内に尽力してくれた全ての人に感謝します。

地震工学コース

アレクサンダー アブラハム ソト カルデナス、ペルー

国際協力機構(JICA)、建築研究所(BRI)、国際地震工学センター(IISEE)に2019年4月16日から20日に京都府、兵庫県、熊本県の研修旅行を計画して

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp



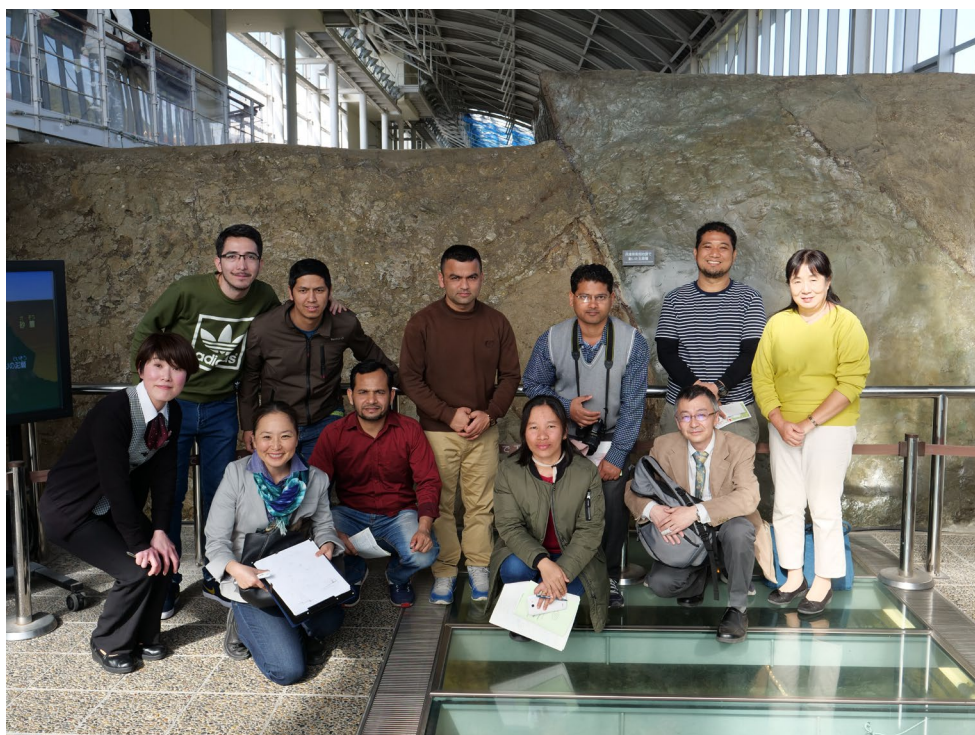
ペルーの
アレックスさん

いただきました。この研修旅行中、1995年に起きた神戸地震とその後の復興について知ることができました。京都では古い神社や寺とその歴史について学びました。また、神戸市と淡路島を結ぶ巨大建造物の明石海峡大橋に登り、その壮大さに感動しました。最後の2日間は熊本で2016年に起こった熊本地震の被害状況を見て回りました。

この5日間で、大震災後のその地域の人々が成し遂げた素晴らしい復興の姿を直に感じとり、学習しました。地方自治体と国、そして地域住民が連携、協力して作業を進めていったことによりこの復興を成し遂げることができたのだということをしかり理解しまし

た。兵庫県には復興の際に、人と防災未来センター、野島断層保存館が建設されました。熊本県では地震後に被災した城や寺などを再建し、京都では古い寺院などを維持・保存に努めており、とても素晴らしいことだと思います。

地方自治体と国が1つの目標に向かって協力していくことで、より効果的に自然災害に立ち向かっていけるのだということを理解しました。この素晴らしい機会を与えてくださった JICA、BRI、IISEE の皆様に感謝いたします。



野島断層保存館

明石海峡大橋：<https://goo.gl/maps/8QEhZxLPup4qiSwq7>

人と防災未来センター：<https://goo.gl/maps/au6WgjbLbStdAUkKA>

広村堤防：<https://goo.gl/maps/zvgVC4aPZptEisCe9>

益城町：<https://goo.gl/maps/Ug6VpqQ24gsv3CAD7>

関西・熊本研修旅行の写真



明石海峡大橋の見学



人と防災未来センター



広村堤防(和歌山県広川町)



断層の観察
(熊本県益城町)



断層の観察
(熊本県益城町)



熊本県益城町

バックナンバーは
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>